

「BTSJ 文字化入力支援・自動集計・複数ファイル自動集計システムセット (2012 年改訂版)」の操作方法の手引き

1.	はじめに	2
2.	「BTSJ 入力支援・自動集計システム」について	2
2.1.	起動（マクロを有効にする）	2
2.2.	新しいトランスクリプトを作成する	3
2.2.1.	会話の情報を入力する	3
2.2.2.	話者を登録する	3
2.2.3.	話者を指定して発話内容を入力する	4
2.2.4.	行を挿入したり，行を削除したりする	4
2.2.5.	エラーチェックを行う	4
2.3.	既存のトランスクリプトを本システムで使う	5
2.3.1.	「データ読み込み」ボタンを使用して読み込む	5
2.3.2.	コピー&ペーストを行う	5
2.3.3.	話者を登録する	6
2.4.	作成したトランスクリプトを保存する	6
2.5.	コーディングとその集計を行う	7
2.5.1.	「Definition」シートでコーディング項目列名や使用する記号を設定する	7
2.5.2.	「Transcription」シートで発話内容をコーディングして、集計する	7
2.5.3.	会話ごとの集計結果のシートについて	7
3.	「BTSJ 複数ファイル自動集計システム」について	9
3.1.	複数ファイルを集計する	9
3.2.	各シートに表示される集計結果について	9

1. はじめに

「BTSJ 文字化入力支援・自動集計・複数ファイル自動集計システムセット (2012 年改訂版)」には、以下の 2 つのシステムが入っています。

- ① BTSJ 入力支援・自動集計システム(.xlt)
- ② BTSJ 複数ファイル自動集計システム(.xls)

このシステムは、マイクロソフト・エクセルのマクロ機能を利用したもので、以下の環境で動きます。

- Windows 日本語 OS
- Microsoft Excel2003、Excel2007、Excel2010

※Mac の場合は、Windows を搭載したものか、シトリックス

(<http://www.apple.com/jp/business/profiles/citrix/>) のようなものを搭載するなどの処置をしてある必要があります。

2. 「BTSJ 入力支援・自動集計システム」について

「BTSJ 入力支援・自動集計システム.xlt」では、1 会話分の文字化入力（トランスクリプト作成）、コーディング、及びコーディング項目の集計を行うことができます。

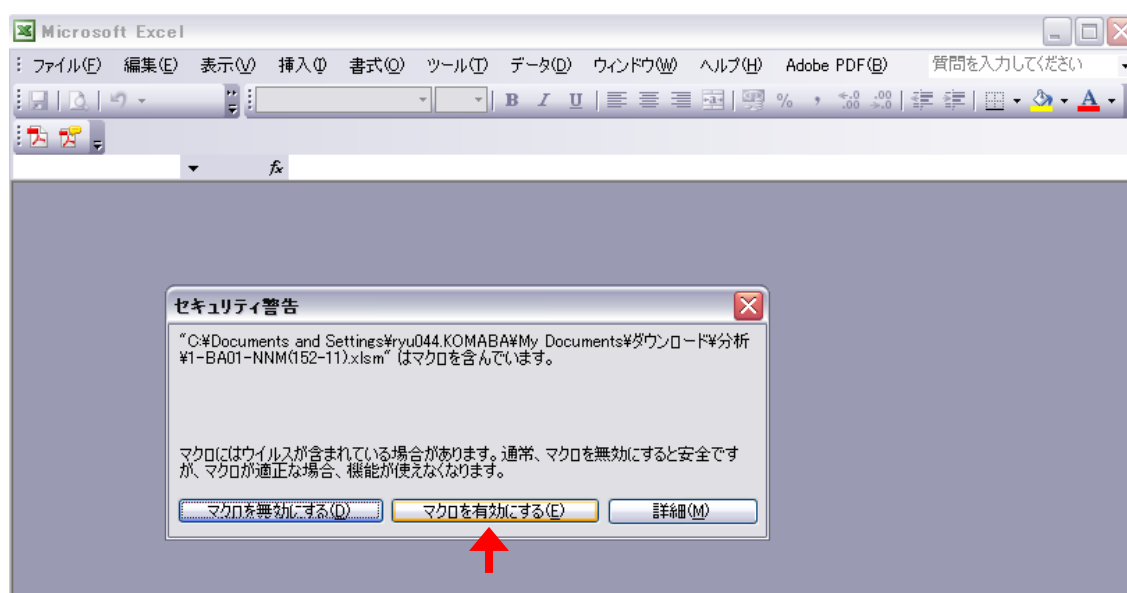
「Transcription」と「Definition」の 2 つのシートがあります。

2.1. 起動（マクロを有効にする）

「BTSJ 入力支援・自動集計システム.xlt」はマクロ機能を利用していますので、マクロを有効にする必要があります。

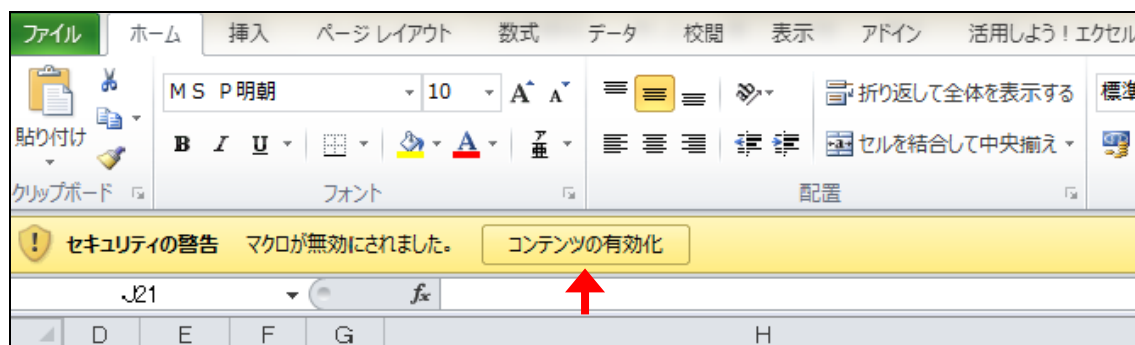
- ・ Excel2003 の場合

「BTSJ 入力支援・自動集計システム.xlt」をダブルクリックすると、「セキュリティ警告」のウィンドウが出ます。「マクロを有効にする」を選んでください。



- ・ Excel2007、2010 の場合

「BTSJ 入力支援・自動集計システム.xlt」をダブルクリックして立ち上げた後、「コンテンツの有効化」をクリックしてください。



2.2. 新しいトランスクリプトを作成する

「BTSJ 入力支援・自動集計システム.xlt」を開くと、「Transcription」シートに以下の画面が出てきます。新しいトランスクリプトを作成する際は、四角で囲った部分を使用します。

	D	E	F	G	H
1	データ読み込み	話者自動登録	話者登録	入力支援画面	行挿入
			行削除	エラーチェック	マクロなし保存
			列追加	集計	
2	会話グループの特徴:		会話記号(話者記号を連結したもの):		話者記号の凡例:
3	会話番号:	時間:	1会話における話者の数:		
4	ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容

入力不要 入力可

本システムの「ライン番号」「発話文番号」「発話文終了」欄は、自動的に記入されます。「話者」と「発話内容」にそれぞれの情報を入力し、トランスクリプトを作成します。

2.2.1. 会話の情報を入力する

最初に、「会話グループの特徴」「会話記号」「話者記号の凡例」「会話番号」「時間」「1会話における話者の数」といった、会話の情報を入力します。

	D	E	F	G	H
	データ読み込み	話者自動登録	話者登録	入力支援画面	行挿入
			行削除	エラーチェック	マクロなし保存
			列追加	集計	
	会話グループの特徴: 親しい同性友人同士(男女)の雑談		会話記号(話者記号を連結したもの): M01-M02		話者記号の凡例: M...Male
	会話番号:1	時間:0分13秒-22分57秒(終)	1会話における話者の数:2		

2.2.2. 話者を登録する

発話内容を入力する前に、話者を登録します。

- ・ 「話者登録」ボタンを押し、「話者登録」画面を出します。
- ・ 「話者A」「話者B」「話者C」に使用する記号あるいは仮名を入力し、決定します。

※ 複数の会話の分析結果は「話者A」「話者B」「話者C」のカテゴリごとに集計が出てき

ます。そのため、例えば、先輩と後輩の会話を 10 会話分析する場合は、先輩を「話者 A」、後輩を「話者 B」というように条件を統一して登録してください。(9 頁の 3.「BTSJ 複数ファイル自動集計システム」について、を参照)

2.2.3. 話者を指定して発話内容を入力する

話者と発話内容を入力する方法には、以下の 2 つがあります。

① セルに直接入力する

- ・ 「発話内容」列に直接入力する場合、「話者」列ではプルダウンメニューで話者を選べます。

② 入力支援画面を用いる (対になった記号の入力などに便利です)

入力支援画面を利用して、発話内容を入力します。

- ・ 入力するセルを選択し、「入力支援画面」ボタンを押すと、「入力支援画面」が立ち上がります。
- ・ 入力支援画面上部で「話者」を選び、発話内容を入力します。
- ・ 1 ライン分の入力が終わったら、「決定」ボタンを押します。エクセルシートに発話内容が入力され、カーソルが次のセルに移ります。そのとき入力支援画面上部の「話者」も違う話者に変わります。同じ話者の発話文が続く場合は、手動で話者を選び直してください。
- ・ すでに入力した発話を修正したいときは、修正したいセルを選択して「編集」ボタンを押すと、選択したセルの発話内容が入力支援画面に読み込まれます。
- ・ 「継続入力」ボタンを押すと、最後に入力した発話内容の次の列に入力することができます。
- ・ 入力支援画面の下ボタンやショートカットを利用することで、BTSJ で用いる記号を簡便に入力することができます。発話の重なりや括弧等、発話を囲む記号は、ボタンを押すと括弧の中にカーソルが置かれるので、そのまま発話内容を入力することができます。また、囲みたい発話をドラッグしてからボタン (あるいはショートカットキー) を押すと、選択した発話をそのまま囲んでくれます。

2.2.4. 行を挿入したり、行を削除したりする

発話文の認定に悩んだ場合等、文字化の際 (特に、確認時) にラインを増やしたり削除したりする必要が生じる場合があります。「行挿入」「行削除」ボタンを利用すると、話者の設定や発話文番号がずれることなく、行の挿入や削除を行うことができます。

※この機能を使わず、右クリックで「挿入」「削除」の機能を利用した場合、話者の設定や発話文番号がずれることがあるのでご注意ください。

2.2.5. エラーチェックを行う

「エラーチェック」ボタンを押すと、以下のことが自動的に行われます。

- ・ 発話文番号の付与
- ・ 入力した記号の半角・全角の統一、余分なスペースの削除
- ・ 入力した記号にミスがある場合は、コメントにエラーメッセージが出てきます。メッセージに従って修正してください。

入力にミスがない場合や修正が終わった場合は、「エラーは全て修正しました」というメッセージが出てきます。

2.3. 既存のトランスクリプトを本システムで使う

既に文字化した資料を、本システムに読み込むことができます。これには、「データ読み込み」ボタンを使用する方法と、コピー&ペースト機能を使う方法があります。

2.3.1. 「データ読み込み」ボタンを使用して読み込む

以下①②のトランスクリプトは、「データ読み込み」ボタンを利用して本システムで読み込むことができます。「データ読み込み」ボタンを利用した場合、読み込みと同時にエラーチェックを行ってくれます。また、エラーチェック終了後、自動的に「話者登録」画面が表れます。

① Microsoft Excel2003、2007、2010 で作成した BTSJ のトランスクリプト

以下のような、普通のエクセルで作成したトランスクリプトを読み込むことができます。

	A	B	C	D	E	F	G
1	会話グループ	会話記	話者記	会話番号	時間:0分0秒-18分10秒(終)	1会話における話者の数:2	
2	ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容		
3	1	1	*	NNM	名前は?。		
4	2	2	*	BA01	「BA01姓」、と申します。		

「データ読み込み」ボタンを押すと、1行目に入力した情報、話者、発話内容が以下のように読み込まれます。

会話グループの特徴: 初対面女性ベース雑談 (接触、母語)			会話記号(話者記号を連結したもの): BA01-NNM		話者記号の凡例: BA…日本人ベース話者 (外国人との接触頻度高) NNM…日本語中級話者、台湾人	
会話番号:1			時間:0分0秒-18分10秒(終)		1会話における話者の数:2	
ライン 番号	発話文 番号	発話文 終了	話者	発 話 内 容		
1	1	*	NNM	名前は?。		
2	2	*	BA01	「BA01姓」、と申します。		

※ 読み込むトランスクリプトのシート名は「Transcription」以外にしてください（次の②に該当するファイルとの区別を、シート名で判断しているため）。

② 「BTSJ 入力支援・自動集計システム.xlt」で作成し、「マクロなし保存」をしたトランスクリプト

「データ読み込み」ボタンを押し、読み込むファイルを選択してください。この場合、シート名は必ず「Transcription」にしてください（ファイルの種類をシート名で判断しているため）。

2.3.2. コピー&ペーストを行う

コピー&ペーストを行って、発話内容等を「BTSJ 入力支援・自動集計システム.xlt」のトランスクリプト画面に貼り付けることもできます。元のデータの「話者」と「発話内容」をコピーし、「値」として貼り付けてください。

※ 「値」として貼り付けないと、「BTSJ 入力支援・自動集計システム」がうまく動かない場合がありますのでご注意ください。

※ ワードやテキストで作成したトランスクリプトは、「話者」と「発話内容」をエクセルシートの違う列に分けてペーストできるように工夫する必要があります。

2.3.3. 話者を登録する

既に文字化した資料の話者登録を行う場合には、「話者登録」画面に話者を手動で登録する方法と「話者自動登録」ボタンを使う方法があります。

① 話者を手動で登録する

「データ読み込み」ボタンを利用した場合は、読み込みと同時にエラーチェックを行い、自動的に「話者登録」画面が表れますので、それを利用して話者を登録してください。

コピー&ペーストを行った場合は、「話者登録」ボタンを押して画面を出し、登録してください。

② 「話者自動登録」ボタンを使う

「話者自動登録」ボタンを押すと、ライン1の話者が「話者A」、次の話者が「話者B」として自動的に登録されます。同じ年齢の同性同士の会話等、話者Aと話者Bに条件の違いがない場合はこの機能を使うと便利です。話者Aが年上で話者Bが年下等、話者の条件が異なる場合は、「話者登録」画面を利用して話者を登録してください。

以上によって、既存のトランスクリプトを本システムで使うことができるようになります。

2.4. 作成したトランスクリプトを保存する

「マクロなし保存」というボタンを押すと、マクロ機能がない状態のファイルが出てきますので、そのファイルを通常のエクセルと同様に保存してください。

データ 読み込み	話者 自動登録	話者登録	入力支援 画面	行 挿入	行 削除	エラー チェック	マクロなし 保存	列 追加	集計
会話グループの特徴: 親しい同性友人同士(男女)の雑談		会話記号(話者記号を連結したもの): M01-M02			話者記号の凡例: M...Male				

トランスクリプトの作成については、以上です。

2.5. コーディングとその集計を行う

「Transcription」シートの「列追加」ボタンを使ってコーディング項目列を作成し、コーディングの記号をすべての発話文に入力していきます。「集計」ボタンを押すとコーディングの結果が出ます。コーディング項目列に入力する記号は、「Definition」シートで指定します。

2.5.1. 「Definition」シートでコーディング項目列名や使用する記号を設定する

「Definition」シートでコーディング項目列名や使用する記号を設定するときの注意点は以下の通りです。

- ・ 「Definition」シートの「コーディング項目」欄と「Transcription」シートの「コーディング項目」欄には、同じ名称を入れます。名称が違う場合、「コーディング見出しがDefinitionシートに存在しません。処理を中止します」というメッセージが出ます。
- ・ コーディング項目ごとに、使用する記号を入力します。記号を入力した順番は、表に出てくる順番になります。例えば、上から「P」「N」「NM」の順に入力すれば、表は左から「P」「N」「NM」の順に表示されます。
- ・ コーディング項目ごとに使用する記号を入力した後、最後に必ず「x」「#」をこの順番で入力してください。

2.5.2. 「Transcription」シートで発話内容をコーディングして、集計する

「Definition」シートに記号を入力したら、「Transcription」シートでコーディングを行います。

コーディング項目列への記号の入力が終わったら、コーディング項目名のセルにカーソルを当てて「集計」ボタンを押すと、コーディング項目列ごとに、集計ができます。

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容	文末	終助詞
1	1	*	JQM02	こんくには>[k]。	P	na
2	2	*	JBM03	<はむめまして>[b]。	P	na

「Definition」シートにない記号が入力されると、「Definition シートにないコーディング記号が赤字で示されています。修正後、再度集計してください」というエラーウィンドウが出ますので注意してください。

2.5.3. 会話ごとの集計結果のシートについて

集計結果は、「基本情報」として「発話文数」、及び、「話者交替数」の表が作られます。また、「コーディング列からの集計」として「表1 各項目の頻度と、総発話文数に占める各項目の割合」「表2 各項目の頻度と、総発話文数に占める各項目の割合（聞き取り不能の発話文と、コーディングの対象としない発話を除いたもの）」「表3 各項目の頻度と、話者ごとの項目の総計に占める各項目の割合」「表4 各項目の頻度と、各項目の総計に占

める話者別の割合」という 4 つの表が作られます。

シートの全体図は以下の通りです。

基本情報

発話文

話者	頻度	割合
JBM01	12	40.00%
JOM02	18	60.00%
会話	30	100.00%

話者交替

話者交替回数

25

コーディング列からの集計

表1 各項目の頻度と、総発話文数に占める各項目の割合

話者	P		N		NM		x		#		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
JBM01	9	30.00%	0	0.00%	3	10.00%	0	0.00%	0	0.00%	12	40.00%
JOM02	9	30.00%	3	10.00%	6	20.00%	0	0.00%	0	0.00%	18	60.00%
会話	18	60.00%	3	10.00%	9	30.00%	0	0.00%	0	0.00%	30	100.00%

コーディング不能の発話(#)、コーディングの対象としない発話(x)も含む

表2 各項目の頻度と、総発話文数に占める各項目の割合(聞き取り不能の発話文と、コーディングの対象としない発話文を除いたもの)

話者	P		N		NM		x		#		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
JBM01	9	30.00%	0	0.00%	3	10.00%					12	40.00%
JOM02	9	30.00%	3	10.00%	6	20.00%					18	60.00%
会話	18	60.00%	3	10.00%	9	30.00%					30	100.00%

コーディング不能の発話(#)、コーディングの対象としない発話(x)を含まない

表3 各項目の頻度と、話者ごとの項目の総計に占める各項目の割合

話者	P		N		NM		x		#		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
JBM01	9	75.00%	0	0.00%	3	25.00%					12	100.00%
JOM02	9	50.00%	3	16.67%	6	33.33%					18	100.00%

コーディング不能の発話(#)、コーディングの対象としない発話(x)を含まない

表4 各項目の頻度と、各項目の総計に占める話者別の割合

話者	P		N		NM		x		#	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
JBM01	9	50.00%	0	0.00%	3	33.33%				
JOM02	9	50.00%	3	100.00%	6	66.67%				
会話	18	100.00%	3	100.00%	9	100.00%				

コーディング不能の発話(#)、コーディングの対象としない発話(x)を含まない

それぞれの表には、以下のことが表示されます。

発話文数

その会話における、話者ごとの発話文数とその割合、総発話文数を表示します。

話者交替数

その会話における話者交替数を表示します。

表1 各項目の頻度と、総発話文数に占める各項目の割合

各コーディング項目の頻度、及び、分母を「総発話文数」としたときの各コーディング項目の割合を表示します。コーディングの対象としない発話 (x) と、コーディングができない発話 (#) も総発話文数に含めています。

表2 各項目の頻度と、総発話文数に占める各項目の割合(聞き取り不能の発話文と、コ

コーディングの対象としない発話を除いたもの)

表1と同じように、各コーディング項目の頻度、及び、分母を「総発話文数」としたときの各コーディング項目の割合を表示します。ただし、コーディングの対象としない発話 (x) と、コーディングができない発話 (#) は総発話文数に含めません。

表3 各項目の頻度と、話者ごとの項目の総計に占める各項目の割合

各コーディング項目の頻度、及び、分母をそれぞれの「話者」としたときの各コーディング項目の割合を表示します。コーディングの対象としない発話 (x) と、コーディングができない発話 (#) は、話者ごとの項目の総計に含めません。

表4 各項目の頻度と、各項目の総計に占める話者別の割合

各コーディング項目の頻度、及び、分母をそれぞれの「コーディング項目」としたときの各コーディング項目の割合を表示します。コーディングの対象としない発話 (x) と、コーディングができない発話 (#) は、各項目の総計に含めません。

会話ごとのコーディングとその集計については、以上です。

3. 「BTSJ 複数ファイル自動集計システム」について

「BTSJ 複数ファイル自動集計システム.xls」では、「BTSJ 入力支援・自動集計システム」で1会話ずつ、分析項目ごとに集計した結果を、同じ条件で集計した複数の会話の集計結果の平均や割合、標準偏差等を算出します。

3.1. 複数ファイルを集計する

「BTSJ 複数ファイル自動集計システム.xls」を起動するまえに、集計したい複数のファイルを全てひとつのフォルダに入れます。「BTSJ 集計システム」を起動し、集計対象フォルダを選択してOKをクリックします。

3.2. 各シートに表示される集計結果について

1つのコーディング項目につき、「平均と割合 (コーディング項目名)」、「記述統計 (コーディング項目名)」という2つのシートが作られ、() 内には、コーディング項目列の名称が表示されます。例えば、「文末」と「終助詞」を集計した結果は以下のように出てきます。



①「平均と割合 (コーディング項目名)」シート

シートの全体図は次の通りです。

【5】会話の合計と、1会話あたりの平均

基本情報

発話文

話者	頻度の 合計	頻度の 平均	割合
YF01	917	183.40	48.39%
OF01	978	195.60	51.61%
会話	1895	379.00	100.00%

発話文

話者交替 回数合計	話者交替 回数平均
1804	360.80

コーディング列からの集計

表1 各項目の頻度と、総発話文数に占める各項目の割合

話者	P			N			NM1			X			θ			合計		
	頻度の 合計	頻度の 平均	割合	頻度の 合計	頻度の 平均	割合	頻度の 合計	頻度の 平均	割合	頻度の 合計	頻度の 平均	割合	頻度の 合計	頻度の 平均	割合	頻度の 合計	頻度の 平均	割合
YF01	917	183.40	48.39%	75	15.00	3.96%	959	191.80	49.35%	9	9.00	2.32%	43	8.60	2.18%	917	183.40	48.39%
OF01	978	195.60	51.61%	156	31.20	8.25%	822	164.40	42.65%	9	9.00	2.32%	15	3.00	0.78%	978	195.60	51.61%
会話	545	109.00	28.28%	260	52.00	13.72%	1045	209.00	55.30%	9	9.00	2.32%	59	11.80	3.05%	1895	379.00	100.00%

コーディング不能の発話(0)、コーディングの対象としない発話を除いたもの(0)も含む

表2 各項目の頻度と、総発話文数に占める各項目の割合(聞き取り不能の発話と、コーディングの対象としない発話を除いたもの)

話者	P			N			NM1			X			θ			合計		
	頻度の 合計	頻度の 平均	割合	頻度の 合計	頻度の 平均	割合	頻度の 合計	頻度の 平均	割合	頻度の 合計	頻度の 平均	割合	頻度の 合計	頻度の 平均	割合	頻度の 合計	頻度の 平均	割合
YF01	917	183.40	48.39%	75	15.00	3.96%	959	191.80	49.35%							917	183.40	48.39%
OF01	978	195.60	51.61%	156	31.20	8.25%	822	164.40	42.65%							978	195.60	51.61%
会話	545	109.00	28.28%	260	52.00	13.72%	1045	209.00	55.47%							1895	379.00	100.00%

コーディング不能の発話(0)、コーディングの対象としない発話を除いたもの(0)を含まない

表3 各項目の頻度と、話者ごとの項目の総計に占める各項目の割合

話者	P			N			NM1			X			θ			合計		
	頻度の 合計	頻度の 平均	割合	頻度の 合計	頻度の 平均	割合	頻度の 合計	頻度の 平均	割合	頻度の 合計	頻度の 平均	割合	頻度の 合計	頻度の 平均	割合	頻度の 合計	頻度の 平均	割合
YF01	917	183.40	48.39%	75	15.00	3.96%	959	191.80	49.35%							917	183.40	48.39%
OF01	978	195.60	51.61%	156	31.20	8.25%	822	164.40	42.65%							978	195.60	51.61%
会話	545	109.00	28.28%	260	52.00	13.72%	1045	209.00	55.47%							1895	379.00	100.00%

コーディング不能の発話(0)、コーディングの対象としない発話を除いたもの(0)を含まない

表4 各項目の頻度と、各項目の総計に占める話者別の割合

話者	P			N			NM1			X			θ			合計		
	頻度の 合計	頻度の 平均	割合	頻度の 合計	頻度の 平均	割合	頻度の 合計	頻度の 平均	割合	頻度の 合計	頻度の 平均	割合	頻度の 合計	頻度の 平均	割合	頻度の 合計	頻度の 平均	割合
YF01	917	183.40	48.39%	75	15.00	3.96%	959	191.80	49.35%							917	183.40	48.39%
OF01	978	195.60	51.61%	156	31.20	8.25%	822	164.40	42.65%							978	195.60	51.61%
会話	545	109.00	28.28%	260	52.00	13.72%	1045	209.00	55.47%							1895	379.00	100.00%

コーディング不能の発話(0)、コーディングの対象としない発話を除いたもの(0)を含まない

最初に、「() 会話の合計と、1会話あたりの平均」と表示されます。() 内には、集計を行った会話の数が表示されます。

集計結果の話者欄に表示される話者は、「話者A」「話者B」から話者のカテゴリごとに任意に選ばれます。

(5) 会話の合計と、1会話あたりの平均															
基本情報															
発話文															
話者	頻度の 合計	頻度の 平均	割合	話者	頻度の 合計	頻度の 平均	割合	話者	頻度の 合計	頻度の 平均	割合	話者	頻度の 合計	頻度の 平均	割合
YF01	917	183.40	48.39%	YF01	917	183.40	48.39%	YF01	917	183.40	48.39%	YF01	917	183.40	48.39%
OF01	978	195.60	51.61%	OF01	978	195.60	51.61%	OF01	978	195.60	51.61%	OF01	978	195.60	51.61%
会話	1895	379.00	100.00%	会話	1895	379.00	100.00%	会話	1895	379.00	100.00%	会話	1895	379.00	100.00%

5つの会話の「話者A」は、YF(Younger Female: 年下の女性)で統一されており、会話ごとに YF01 から YF05 まで 5 人の話者がいる。話者 A を代表して「YF01」が選ばれ表示されている。

「話者 B」も同様に、OF(Old Female: 年上の女性)で統一されており、会話ごとに OF01 から OF05 まで 5 人の話者がいる。話者 B を代表して「OF01」が選ばれ表示されている。

集計結果は、会話ごとの集計結果と同じように、「基本情報」として「発話文数」、及び、「話者交替数」の表が作られます。また、「コーディング列からの集計」として「表1 各項目の頻度と、総発話文数に占める各項目の割合」「表2 各項目の頻度と、総発話文数に占める各項目の割合(聞き取り不能の発話と、コーディングの対象としない発話を除いたもの)」「表3 各項目の頻度と、話者ごとの項目の総計に占める各項目の割合」「表4 各項目の頻度と、各項目の総計に占める話者別の割合」という 4 つの表が作られます。

各表では、対象とした複数の会話の集計結果として、合計・平均・割合の 3 つの項目が表示されます。

②「記述統計（コーディング項目名）」シート
シートの全体図は次の通りです。

【5】会話の記述統計																									
基本情報																									
発話文																									
話者	話者の 数	話者の 平均	話者の 標準偏差	話者の 最小値	話者の 最大値	話者の 平均	話者の 標準偏差	話者の 最小値	話者の 最大値	話者の 平均	話者の 標準偏差	話者の 最小値	話者の 最大値	話者の 平均	話者の 標準偏差	話者の 最小値	話者の 最大値	話者の 平均	話者の 標準偏差	話者の 最小値	話者の 最大値	話者の 平均	話者の 標準偏差	話者の 最小値	話者の 最大値
YPSI	10	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00
CPH	10	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00
合計	20	2.00	1.41	0.00	4.00	2.00	1.41	0.00	4.00	2.00	1.41	0.00	4.00	2.00	1.41	0.00	4.00	2.00	1.41	0.00	4.00	2.00	1.41	0.00	4.00
割合																									
話者	話者の 数	話者の 平均	話者の 標準偏差	話者の 最小値	話者の 最大値	話者の 平均	話者の 標準偏差	話者の 最小値	話者の 最大値	話者の 平均	話者の 標準偏差	話者の 最小値	話者の 最大値	話者の 平均	話者の 標準偏差	話者の 最小値	話者の 最大値	話者の 平均	話者の 標準偏差	話者の 最小値	話者の 最大値	話者の 平均	話者の 標準偏差	話者の 最小値	話者の 最大値
YPSI	10	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00
CPH	10	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00
合計	20	2.00	1.41	0.00	4.00	2.00	1.41	0.00	4.00	2.00	1.41	0.00	4.00	2.00	1.41	0.00	4.00	2.00	1.41	0.00	4.00	2.00	1.41	0.00	4.00
コーティング項目別集計結果																									
表1 各項目の頻度と、総発話文数に占める各項目の割合																									
話者	話者の 数	話者の 平均	話者の 標準偏差	話者の 最小値	話者の 最大値	話者の 平均	話者の 標準偏差	話者の 最小値	話者の 最大値	話者の 平均	話者の 標準偏差	話者の 最小値	話者の 最大値	話者の 平均	話者の 標準偏差	話者の 最小値	話者の 最大値	話者の 平均	話者の 標準偏差	話者の 最小値	話者の 最大値	話者の 平均	話者の 標準偏差	話者の 最小値	話者の 最大値
YPSI	10	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00
CPH	10	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00
合計	20	2.00	1.41	0.00	4.00	2.00	1.41	0.00	4.00	2.00	1.41	0.00	4.00	2.00	1.41	0.00	4.00	2.00	1.41	0.00	4.00	2.00	1.41	0.00	4.00
表2 各項目の頻度と、総発話文数に占める各項目の割合(聞き取り不能の発話文と、コーティングの対象としない発話を除いたもの)																									
話者	話者の 数	話者の 平均	話者の 標準偏差	話者の 最小値	話者の 最大値	話者の 平均	話者の 標準偏差	話者の 最小値	話者の 最大値	話者の 平均	話者の 標準偏差	話者の 最小値	話者の 最大値	話者の 平均	話者の 標準偏差	話者の 最小値	話者の 最大値	話者の 平均	話者の 標準偏差	話者の 最小値	話者の 最大値	話者の 平均	話者の 標準偏差	話者の 最小値	話者の 最大値
YPSI	10	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00
CPH	10	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00
合計	20	2.00	1.41	0.00	4.00	2.00	1.41	0.00	4.00	2.00	1.41	0.00	4.00	2.00	1.41	0.00	4.00	2.00	1.41	0.00	4.00	2.00	1.41	0.00	4.00
表3 各項目の頻度と、話者ごとの項目の総計に占める各項目の割合																									
話者	話者の 数	話者の 平均	話者の 標準偏差	話者の 最小値	話者の 最大値	話者の 平均	話者の 標準偏差	話者の 最小値	話者の 最大値	話者の 平均	話者の 標準偏差	話者の 最小値	話者の 最大値	話者の 平均	話者の 標準偏差	話者の 最小値	話者の 最大値	話者の 平均	話者の 標準偏差	話者の 最小値	話者の 最大値	話者の 平均	話者の 標準偏差	話者の 最小値	話者の 最大値
YPSI	10	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00
CPH	10	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00
合計	20	2.00	1.41	0.00	4.00	2.00	1.41	0.00	4.00	2.00	1.41	0.00	4.00	2.00	1.41	0.00	4.00	2.00	1.41	0.00	4.00	2.00	1.41	0.00	4.00
表4 各項目の頻度と、各項目の総計に占める各項目の割合																									
話者	話者の 数	話者の 平均	話者の 標準偏差	話者の 最小値	話者の 最大値	話者の 平均	話者の 標準偏差	話者の 最小値	話者の 最大値	話者の 平均	話者の 標準偏差	話者の 最小値	話者の 最大値	話者の 平均	話者の 標準偏差	話者の 最小値	話者の 最大値	話者の 平均	話者の 標準偏差	話者の 最小値	話者の 最大値	話者の 平均	話者の 標準偏差	話者の 最小値	話者の 最大値
YPSI	10	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00
CPH	10	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00	1.00	0.71	0.00	2.00
合計	20	2.00	1.41	0.00	4.00	2.00	1.41	0.00	4.00	2.00	1.41	0.00	4.00	2.00	1.41	0.00	4.00	2.00	1.41	0.00	4.00	2.00	1.41	0.00	4.00

「平均と割合（コーディング項目名）」シートと同様、最初に、「（ ）会話の記述統計」と表示されます。（ ）内には、集計を行った会話の数が表示されます。集計結果の話者欄に表示される話者は、「話者A」「話者B」から話者のカテゴリごとに任意に選ばれます。

集計結果は、会話ごとの集計結果と同じように、「基本情報」として「発話文数」、及び、「話者交替数」の表が作られます。また、「コーディング列からの集計」として「表1 各項目の頻度と、総発話文数に占める各項目の割合」「表2 各項目の頻度と、総発話文数に占める各項目の割合（聞き取り不能の発話文と、コーティングの対象としない発話を除いたもの)」「表3 各項目の頻度と、話者ごとの項目の総計に占める各項目の割合」「表4 各項目の頻度と、各項目の総計に占める話者別の割合」という 4 つの表が作られます。

各表では、対象とした複数の会話を集計した結果として、頻度の最大値・頻度の最小値・頻度の標準偏差・割合の最大値・割合の最小値、の 5 つの項目の結果が表示されます。

複数ファイルの自動集計については、以上です。